

高齢者も子どもたちも“笑顔”になれる活動を！

多くの人が次々に訪れた芋煮会



香取市の新宿地区社会福祉協議会（以下、新宿地区社協）は、市内でもっとも大きく、とても実行力のある地区社協です。「地域の人々のためになる」「地域の人々が笑顔になる」と思われる提案が出されれば、役員の方々が先頭に立って走り出し、新宿地区社協のメンバーはもちろん周囲の人々や企業なども巻き込んで提案を実現させてしまいます。

今回は、そんな活気溢れる新宿地区社協の取り組みをご紹介します。

ふるさとの活性化に貢献！大盛況の「大芋煮会」

平成26年12月7日、香取市中心部に設置された会場で、新宿地区社協の主催による第1回「大芋煮会」が開催されました。訪れた多くの人々に、大きな鍋で調理された約400食の芋煮と100食のうどんが無料で振る舞われました。



左から会計の秋山隆さん、会長の山崎日出明さん、理事兼事務局長の鈴木栄司さん

芋煮の材料となったサトイモ、豚肉、ニンジン、ネギなどはすべて地元産。新宿地区社協は日頃からさまざまな企業、団体、ボランティアなどと連携しており、これらの野菜も『道の駅水の郷さわら』出荷者協議会の方々からご提供いただいたとのことです。

味付けにも妥協しません。芋煮の本場である山形県まで視察に行っただけでなく、醤油、味噌、そして塩など、さまざまな味付けで試作を重ね最終的に醤油味に決定しました。そんなこだわりの一品に、大賑わいの場内には「美味しい！」という歓声が飛び交っていました。

この「大芋煮会」、日頃まちに活気がないこと、そして地域住民が集まる機会もあまりないという現状を憂えて、地域の活性化を目指して開催を決めたとのこと。その狙いどおり、会場では古くからの仲間たち、久々に顔を合わせた人たち、子どもたち…あらゆる人が舌鼓を打ちながら、楽しそうにお喋りに花を咲かせている姿が見られました。

平成26年度はこのほか、「ふるさとさわら盆踊り大会」も初めて開催するなど、新宿地区社協はまちの活性化や子どもたちのふるさとづくりを目的とした事業を積極的に推し進めています。

多くの方が参加しやすいよう配慮した事業を展開

新宿地区社協では、カラオケや健康体操などを行う「サロン事業」や、「高齢者日帰り・入浴サービス」など、高齢者を対象とした事業にも力を注いでいます。「サロン事業」と「高齢者日帰り・入浴サービス」はおよそ1ヵ月交代で実施しています。

「サロン事業」には毎回30名以上が参加。広い地区内の3ヵ所（公民館など）に会場を設け、月によって場所を変えながら開催しており、利用者は身近な会場で参加することができます。

「高齢者日帰り・入浴サービス」には毎回60名以上が参加しており、2台のバスで日帰り温泉施設への送迎を行うことで、体の不自由な方でも参加できるようにしています。

このように、どちらの事業も、多くの方が参加しやすいようにきめ細かな配慮がなされており、そうした配慮が参加者の多さにつながっているのです。

新宿地区社協会長の山崎日出明さん、山崎さんと同級生という理事兼事務局長の鈴木栄司さん、そして会計を務める秋山隆さんは、口を揃えてこう言います。「福祉活動は日時を決めて場所を用意するだけではダメなのです。誰もが参加できるようにきめ細かな配慮をし、利用する方々の本当のニーズに応えなくてはなりません」と。ちなみに山崎さんは、市内の人気スポット『道の駅水の郷さわら』の代表や、ショッピングセンターの代表取締役を務めるほか、ラーメン店も経営するいわばサービスのプロ。日々培われてきたサービス精神も、地区社協の取り組みに大きな影響を与えているのでしょう。



サロン事業（健康体操）



仮設住宅で避難者の見守り活動

災害時にも被災者支援に奔走

山崎さんが会長に就任したばかりの平成23年3月に発生した東日本大震災の際には、約5,000棟が全半壊・一部損壊するなど、香取市も大きな被害を受けました。多くの住民が避難所生活を送ることとなりましたが、それまで3年間「地域福祉フォーラム」を活用しながら精力的に活動を行っていた新宿地区社協のメンバーは、その時もニーズに応えるべく自ら被災者支援に奔走したのです。

例えば、避難所で被災者におにぎりとお茶が配られているのを見て、「こんなに寒いのだから、温かいご飯が食べたいに違いない」と考え現地で炊き出しを行ったり、応急仮設住宅では見回りなども行いました。

このように、精力的に活動を続ける新宿地区社協。その理由は単純明快で、「私たちはみんなの笑顔を見られるのが一番嬉しい、だから頑張れるのです！」とのこと。

新宿地区社協の周囲には、これからもたくさんの笑顔が集まることでしょう。

防災・減災、そして福祉教育に力を注ぐ！

香取市社会福祉協議会（以下、香取市社協）は平成18年4月、佐原市、小見川町、山田町、栗源町の社会福祉協議会が合併して誕生しました。そのため、市内には23もの地区社協があります。合併して8年が経過しましたが、4つの事務所もそのまま機能しているため、年を重ねるごとにベクトルを合わせている面もあれば、それぞれの地域の独自性を生かしながら事業を実施している面もあります。

香取市社協では現在、人口減少が続いているという理由もあり、次代を担う子どもたちのための福祉教育に力を注いでいます。この地域も総合学習が導入されてから福祉教育に取り組む学校が増え、福祉関係者の講義や障害を持つ方々からのお話を聞きたいという依頼を受けることが多くなってきました。こうした取り組みを推進するため、3年前には市内の小・中・高校を対象とした助成金制度を起ち上げました。

香取市は平成23年3月に発生した東日本大震災で、県内でも被害の大きかった地域の一つであり、特に断水には苦しみました。それを教訓とし、今後も災害発生時のマニュアル策定を含む防災・減災に対する取り組みを推し進めたいと考えています。

また、地区社協活動に関しては、当面の目標としてすべての地区社協においてサロン、見守り活動を実施してもらうように働きかけたいと考えています。その意味でも今回ご紹介いただいた新宿地区社協の活動は、他の地区社協だけでなく香取市社協にとっても良い刺激となっています。



香取市社協　柳田勝彦さん

※香取市人口：81,647人　65歳以上人口：24,706人　高齢化率：30.3%（平成26年4月現在）